

【シート1】 運営状況 (総括)	指 摘 事 項	措 置 状 況
【シート2】各館・所の特徴	<p>「の強一 認み館 識ーの」</p>	<p>①館のHPの充実を図り、研究機関としての蓄積を積極的に公開していくことを期待。</p>
	<p>「館の弱 みーの 認 識」</p>	<p>①26年度10月にHPの全面的更新を予定しており、研究機関としての蓄積の公表なども盛り込むことを予定している。</p>
	<p>「環 境 の 変 化 」 の 認 識</p>	<p>①展示スペースの制約については、今あるスペースを有効活用して、ターゲットを絞ったり、平常展示スペースを縮小したりして、特徴ある展示をすることができるのでは。 ②収蔵スペースについては、短期的には施設設置者(大阪市)の予算化によって収蔵スペースを増やし、長期的には大阪市として大規模な合同収蔵庫を整備することが必要。人員と予算の不足については、来館者増による収入増を図るのも有力な選択肢だが限度があるので、協会全体での活動として位置付け更に予算を確保するとともに、予算の効率的運用を図るべき。</p>
	<p>「指 定 管 理 期 間 の 変 化」</p>	<p>①新規の作品収集によるジャンルの拡大の必要性が高まっており、検討を。国際化に対応した固有職員の確保を。 ②中之島を中心とした水辺の再整備事業の進展による変化を前向きに取り込むか、広報の強化やHPの外国語対応、来場者の趣向の変化への対応について、十分認識する必要がある。</p>
	<p>「今 後 の 課 題」</p>	<p>①寄贈により作品のジャンルの充実に努めており(鼻煙壺など)、また特別展でも東洋陶磁に関連した様々なジャンル(西洋陶磁、近現代陶磁、ガラスなど)の展示に取り組んでいる。当館ならではの国際化に対応した固有職員の確保については要望をしているところである。 ②広報強化やHPの多言語化はすでに実施しているが、HP更新による更なる強化を準備中である。来館者の趣向の変化はアンケートや受付・看視への来館者の声を通じて的確に把握に努めている。</p>
	<p>①事業の源泉がコレクションと運用するスタッフであることを忘れず、館蔵品の見直し、再発掘を続けるとともに、スタッフの調査研究能力、展示企画力、デザイン力を更に高めてほしい。</p>	<p>①調査研究を踏まえた館蔵品の新たな魅力を発掘する企画展には積極的に取り組んでいる(定窯展や写真家とのコラボによる蓮展など)。また、ポスター・チラシ等のデザインについては館のイメージ戦略の重点として早くから重視しており、アンケートなどでも高い評価を得ている。</p>
	<p>①展示手法を更に開拓していくため、大阪市博物館協会の他の館と共同で外部資金を獲得して、体系的に研究することが期待される。 ②施設の計画的改修、収蔵スペースの確保は、いずれも館運営において必須の事項。施設設置者(大阪市)においては、館の状況、館の成果等を十分見極め、タイミングを失することがないように予算措置を行うことを期待する。 ③また、職員の確保は、大阪市博物館協会として取り組むことが必要な課題であろう。</p>	<p>①開館以来の当館の独自の展示手法は高く評価されており、しっかりと継承・共有されている。各館の展示手法は多種多様であるが、当館にふさわしい新たな展示手法の開拓にも積極的に取り組んでいる(写真家とのコラボによる蓮展など)。また、学芸員レベルでは、民間外部資金による展示手法の開拓につながる研究助成を獲得し、その成果を特別展に反映する予定である。 ②計画的改修や収蔵スペースの確保はすでに具体的計画を作成して、大阪市にも要望を出している。 ③専門館ゆえ、学芸部門の専門ジャンルの学芸員の確保は計画的に行う必要がある。大阪市の指定管理期間は4年間であったため、期限付きの契約職員としての採用を行っている。</p>

平成24年度 大阪市博物館協会外部評価【シート3】委員総括コメントへの措置状況

東洋陶磁美術館

事業区分	指摘事項	措置状況
1 資料の収集、保存、活用	<p>①計画的に収集を進める環境作りを。 ②海外での共催巡回展について、日本文化の紹介や交流という観点からも、今後も積極的に取り組みを。 ③館とコレクションのブランド化が重要。ブランド価値を高めるよう貸出先を選ぶことも必要。 ④地下収蔵庫の整備について、引き続き施設設置者(大阪市)には、収蔵資料の評価額に見合う収蔵庫整備を要望する。防災対策上、水害時など地下収蔵庫で良いか十分検討し、早急に措置を。 ⑤大阪市においては、購入予算について美術館・博物館から購入希望を聞き個々の案件毎に判断するシステムの検討を。</p>	<p>①作品購入費が10年近く凍結されているため、寄贈による収集を中心に取り組んでいる。計画的な収集には作品購入費の予算化も必要である。 ②海外での共催巡回展について、27年度は台湾国立故宮博物院での共催展を予定している。 ③国内外での館のブランド化、ブランドイメージについては、デザインなどの広報戦略や国内外の館外でのコレクション展の開催などにより取り組んでいる。平成27年には台湾国立故宮博物院での展覧会も予定しており、引き続きブランド価値を高める工夫をしていきたい。 ④引き続き局に整備を要望していく。</p>
2 調査・研究	<p>①科学研究補助金による研究等調査研究活動の概要、研究成果についてHPの独立サイトで情報発信を。幅広い層へ学芸員名や公表した論文、刊行物名などの公表を。 ②人員不足について、協会各館の共通課題として取り組みを。 ③HP上にある目標「世界における東洋陶磁の研究拠点」について、館の取組状況のHP掲載を。</p>	<p>①、③26年度に更新するHPに研究成果や館の取り組み状況などのページを盛り込む予定である。 ②各館と連携しながら、優秀な人材の確保に努めていきたい。</p>
3 展示(常設展示、特別展)、来館者サービス	<p>①監視員と機械監視と組み合わせる、十分な休憩施設など、より良好な展示環境を。当日再入館者やリピーター来館者に対する優遇も必要では。 ②HPでの「施設のみどころ」紹介やビデオ上映による作品紹介、学童、高齢者、ハンディキャップをもつ人、外国人等に対するの対応等きめ細かい配慮を。</p>	<p>①機械監視は必要十分な体制であるが、来館者への対応も多く、良好な展示環境の維持に重要な役割を担う監視員をなるべく配置できるようにしたい。リピーター来館者へは友の会制度の活用をアピールしていくとともに、友の会の特典をさらに魅力あるものとしていきたい。 ②既にHPで施設のみどころなどを紹介しているが、リニューアル後には動画などでの展示会場紹介などを計画中。また、26年度後半に常設キャプションをリニューアルし、文字の拡大・英語解説の充実などを行う予定。</p>
4 教育普及、学習支援、友の会、ボランティア	<p>①事業の回数を増やすことより、良質の講演会等を丁寧に。作品理解について、引き続きビデオ集録など工夫を。 ②「友の会」の定義を明確にし、それぞれの要求に見合った会費、サービスの設定を。 ③外国語ボランティアガイドの参加はどうか。</p>	<p>①作品理解につながる質の高い講演会や講座、レクチャーに積極的に取り組んでいる。また、ビデオ上映や映像上映なども工夫を行っている(オリジナル番組の上映、作品が360度見られる動画の上映など)。 ②当館友の会は、当館の存立意義を評価し、活動を側面的に支援する目的で設立されたものである。会員の種類は要望にあわせて細分化され、各種のサービスを提供している。26年度は4か月にわたる休館があり、入会・継続数が減少する恐れがあるため、講演会などの会員向け催事の充実や特別展の招待券の配布等を行う予定。 ③外国人向けには、ボランティア・ガイドではなく、英・中・韓音声ガイドを導入する方向で模索中である。</p>
5 学校等との利用促進、学校教育支援		
6 広報・宣伝、情報公開と発信	<p>①インターネットや陶磁ネットワークの活用、中之島ブランド化のための諸活動への参加等を通して認知度を高めること、また協会全体の広報活動によるPRを要望。</p>	<p>①26年度リニューアル予定のHPにおいて、関連諸施設、周辺施設などとの連携を構想している。25年度にWEB「<u>「</u>グーグル・アート」<u>」</u>上で館蔵品の紹介を実施した。今後随時情報を更新予定。</p>
7 地域、市民、関連機関との連携・交流	<p>①中之島という立地を生かし、日常的に周辺のカフェ・レストラン等との連携を行っては。散策コースを提案し、何度も中之島地区を訪れたいとする仕組みを共同開発しては。老松町のアート街との連携も考えては。</p>	<p>①国際フォーラム主催の中之島地域MAPとの提携などに既に取り組み、館受付においても、それらを案内業務に活用している。周辺飲食店との提携、街づくりプランなどの提言に関しては、学芸課学芸員が業務を担当している現状では、能力・手法などに限界があり、専任担当者の配置・行政や周辺企業などとの提携が必要で、一施設だけの問題ではなく、総合的な対応が望まれる。</p>

<p>8 施設の整備、維持管理、リスクマネジメント</p>	<p>①地震対策についてソフト面についても点検し、必要な措置を。</p>	<p>①地震の防災マニュアルを作成し、地震発生時の職員及びスタッフの役割分担を決め、マニュアルに沿った行動をとれるようにしている。お客様の避難や作品の安全確保等を含め年1回程度、避難訓練を行っている。また、お客様と一番身近なところにいる受付及び看視スタッフに対しては、年度初めの展覧会の前日に、当館職員からマニュアルについて説明するとともに避難経路の確認を指導している。</p>
<p>9 運営・マネジメント</p>	<p>①ターゲットを絞った広報により、口コミによる相乗効果を作り、詳しい情報は美術館HPでフォローする仕組みをつくることが重要。経験を踏まえ、更に広報充実を。 ②HPの情報発信の工夫を。 ③今後も充実した他館等との協働による展覧会企画を。</p>	<p>①②今後も展覧会の内容に合わせて情報発信先を精選し、より一層効果的な広報活動に努めていきたい。新制作のHPでは、開催展覧会の画像などを発信できる工夫をする予定。協会HPとも展覧会観覧記などの掲載を提案するなど、共同して効果を高めたい。 ③26年度はサントリー美術館、松本市美術館との共催による特別展「IMARI/伊万里」展を開催予定。</p>
<p>10 a ※各館の特性が できるように、この 項目を活用する。</p>	<p>①効率的な運営を図る領域と手間暇をかけて育てる領域を明確にした対応を。職員採用の在り方、人材育成は、大阪市博物館協会全体の問題として検討が必要。ノウハウの蓄積、継承の観点からも、施設設置者(大阪市)はスタッフの充実に努めることを強く要望。 ②財団統合のメリットを生かし特別展広報業務に協会事務局(総務部)の支援を。またオンライン上の発信にもっと力を。 ③ミュージアムショップやカフェ等の「目的外使用」として貸し出す方式は、制度面の改善が必要。協会と施設設置者(大阪市)で検討を。ショップ・カフェについては、狭義の美術館運営と切り分けて共同受託するケースもあり、次期指定管理に向け検討を。 ④喫茶店について利用実態を十分把握し、今後の在り方について十分検討を。</p>	<p>①当館は東洋陶磁に関する研究拠点として国際的に高い評価を得ており、レベルの高い専門分野の学芸員の養成には5年以上の長い期間が必要である。 ②協会総務部との連携を進める。 ③④当館は路線価の高いところに立地するため、喫茶の委託業者に負担してもらおう使用料も高くなっており、経営的に厳しいとの声も聞かれる。喫茶の利用客数は月平均1,200人(ピーク時2,600人・閑散期500人)であるが、周辺のバラ園や当館の展覧会にちなんだメニュー展開にも協力的で、「ばらゼリー」などの提供や、フィンランド・デザイン展にちなんだイッタラ社(フィンランド)の食器で特別メニューを提供するなどの工夫を行った。また、光のルネサンス開催時は、当館の夜間開館に合わせ営業時間の延長やテラス席の設置などを行った。今後とも当館と情報を共有しながら、お客様に快適で豊かな時間を過ごしていただける空間としての機能を果たしていきたい。</p>